

1. とうもろこしのシカゴ定期は、9月には380セント／ブッシェル前後で推移していたが、9月30日に米国農務省が発表した米国産とうもろこしの四半期在庫が市場予想を下回ったことなどから400セント／ブッシェル前後まで値上がりした。その後、米国産地の天候改善により遅れていた収穫が進むとの期待感から軟調な展開となり、現在は380セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、9月には320ドル／トン前後で推移していたが、米中貿易協議が進展するとの期待感や、9月30日に米国農務省が発表した米国産大豆の四半期在庫が市場予想を下回ったことなどから堅調な展開となり、340ドル／トン前後で推移した。その後、米中貿易協定の最終合意に対する不透明感から軟化し、現在は330ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、8月には50ドル／トン前半であったが、南米産とうもろこしの輸出の本格化に加え、令和2年1月からの排出ガス規制強化に伴う燃料コストなどの上昇により、9月には60ドル／トン近くまで値上がりした。その後、輸送需要が一段落し、現在は50ドル／トン前半で推移している。
4. 外国為替は、9月上旬には106円台で推移していたが、米中貿易協議が進展するとの期待感や、米国の経済指標が良好であること、米国金利の追加利下げ観測が後退したことなどから円安が進み、現在は109円前後で推移している。

